

授業概要

保育士が担う役割として保護者支援、家庭支援がその重要性を増している。さらにその支援の対象は、保育所に入所する子どもの保護者（働く親）のみならず、地域で子育て困難に直面している専業主婦等も含んでいる。保育士は「社会的な子育て支援の担い手」として「専門性を生かしたかわりや支援」を提供することが期待されているのである。そうした社会の要請に応えるためには家族、家庭、親子関係について深く理解し、多角的な観点から問題のありかをとらえる力が必要となる。本講義ではまず、家族の役割や家庭の機能が時代とともに大きく変化していることを学ぶ。そのうえで、現代の家族が直面する諸問題、特に子育てをめぐる困難について、その背景や要因を探っていく。家庭支援の意義と役割について理解するとともに、その支援を現場で担うための実践的な力を養うことを目的とする。

授業計画

第 1 回	家族って何だろう～家族の定義、家族の見方の再検討
第 2 回	「近代家族」の誕生～家族規範の成立と変遷
第 3 回	企業中心社会と家族～戦後日本の家族のあゆみ
第 4 回	育児をとりまく状況～少子化時代の「孤育て」
第 5 回	母性神話と三歳児神話～子育て規範の変遷
第 6 回	育児不安・育児ストレス～育児不安研究から学ぶ
第 7 回	ワンオペ育児と父親の育児参加
第 8 回	前半のまとめ
第 9 回	子ども虐待①～児童虐待防止法について学ぶ
第 10 回	子ども虐待②～親支援という観点
第 11 回	子ども虐待③～面前DVが子どもに与える影響
第 12 回	子育て支援の政策動向
第 13 回	子どもの貧困～社会的支援の必要性
第 14 回	多様な性を生きる子どもとその家族への支援～ジェンダーの視点から
第 15 回	家族を支えるさまざまなネットワーク
第 16 回	定期試験

到達目標

1. 最新の「家族論」に触れ、家族についての見方を鍛える。
2. 家庭支援の意義と役割について理解する。
3. 現代家族が直面する困難について、構造的に読み解く力をつける。
4. 支援のあり方を多角的に検討する力を養う。

履修上の注意

ノートは積極的にとることを求める。また授業時に課題やミニ・レポートの提出を求めることがある。保育士資格取得のための必修科目であり、出席は非常に重要である。遅刻は交通機関等、特別な事情がない限り認めない。

予習復習

予習については、テキストを読んでくるよう指示するので、それを実践すること。
復習については、ノートのまとめ、作業課題など、その都度指示するので、学習に役立てること。

評価方法

定期試験試験（70%）と、授業時に提出を求める課題やミニ・レポート（30%）で判断する。

テキスト

- ・教科書名：『実践 家庭支援論【第3版】』
- ・著者名：松本園子、永田陽子、福川須美、堀口美智子
- ・出版社名：ななみ書房
- ・出版年：2017年